

平成
28年
(2016)

恐竜展再び&岐阜は宝の山

特別展「新・恐竜学」開催(7/8～9/4)。脳が収まっている空洞をもとに脳の形を復元したエンドキャストや県博オリジナルの透明頭骨化石標本を展示。脳の大きさや形、位置が一目瞭然に。



←脳エンドキャスト

ティラノサウルスの透明頭骨標本→



博物館に長年カニサイとして保管されていた謎の絶滅哺乳類化石がカリコテリウム類の左大腿骨化石と判明。

←カリコテリウム類の復元画(画:小田 隆)

平成
30年
(2018)

ポケット学芸員導入&「岐阜県植物誌」完成

ポケット学芸員導入。来館者がアプリをダウンロードすることで音声ガイドによる展示物の案内が可能に。



14年の歳月をかけてついに「岐阜県植物誌」が完成。



↑岐阜県植物誌調査会による活動風景

県内の植物の分布が明らかになった!



令和
元年
(2019)

コロナ禍での博物館

新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため臨時休館(4/4～5/18)。けんぱくおうちミュージアムをHPに開設。学芸員による展示紹介をYouTubeにて公開。

当館の資料収集委員を務める増田孝さんのコレクション展「自筆書状の魅力」を2期に分けてMMGにて開催(9/19～)。

特別展「みんなの恐竜学」開催(12/12～2/28)。タイ王国の恐竜足跡化石産地を題材にしたオリジナルVR体験が大人気!



令和
2年
(2020)

令和
3年
(2021)

体験コンテンツ導入

メインホールにも展示している県内恐竜足跡化石産地に関する映像をVR化し常設した。また恐竜ARアプリをダウンロードしてメインホールの骨格標本にかざすと生体復元され、まるで本物の恐竜との撮影も可能に。



令和
4年
(2022)

令和
5年
(2023)

祝 入場者6万5千人突破!

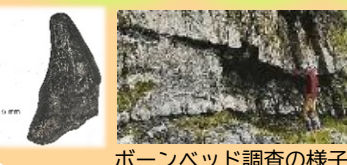
特別展「ポケモン化石博物館」開催(7/19～10/27)。株式会社ポケモン協力のもと、複数の博物館が協働・制作した巡回展。連日ポケモン好きの多くの来場者で賑わった。

←「ポケモン化石博物館」開場式の様子

大人気の古文書読解講座が復活(6月)。新収蔵資料に「羽柴秀吉朱印状」が仲間入り。



古文書読解講座の様子と羽柴秀吉朱印状



ボーンベッド調査の様子

岐阜県博物館と福井県立恐竜博物館及び福井県立大学恐竜学研究所が、県内初となる白亜紀ワニ形類歯化石を確認。

令和
7年
(2025)

白熱! 刀剣ブーム

特別展「兼定 刀都・関の名工」開催(4/27～6/24)。刀剣ブームの影響もあり、全国から多くの来場者が。期間限定で土方歳三の愛刀も展示された。



ご子孫にあたる土方愛さんによる講演会も大盛況→



近隣大型商業施設との連携を開始。クイズラリー、ワークショップの他にパネル展示やスタンプラリーなども行い、博物館を広く知っていただくきっかけとなった。

画家・イラストレーターの小田隆氏による恐竜ライブペインティングを岐阜市のカラフルタウン岐阜で2日間にわたり開催(9月)。



期間限定で「長良隕石」を巡回展示。本物の長良隕石に触るとタッチ証明書がもらえた!



恐竜の卵殻化石発見!

国内2例目となるトロオドン科の可能性のある卵殻化石を岐阜県で発見したと論文発表。期間限定で本館3階ホールに展示した。



ラモプリズマトウリトゥス・オオクライの卵殻化石と復元画(画:小田隆)の展示の様子



博物館DX(デジタルトランスフォーメーション)の一環として、デジタル展示室やリモート授業を開始。

大人から子供まで鉱物のとりこに

企画展「美しき鉱物の世界(1/20～3/17)」は連日大盛況。関連イベント「ジオード割り体験」も行列ができるほどの大人気。



令和元年から始まった旧宮川家住宅の改修工事が完了、再公開された。

休館中の博物館の活動

停電により臨時休館(7/15～9/12)。真っ暗闇、空調もない中で収蔵品の管理や展示準備などを行った。



神岡化石フォーラム2025開催(9月)。昨年発見されたワニ形類化石についての講演会やワークショップ「化石発掘体験」を行った。

企画展「鳥の卵のひみつ」は11/30までの延期開催となった。

来場者1万人達成セレモニーの様子→

